

令和7年度 医学部保健学科小論文 出題意図

【入学者選抜要項：医学部保健学科】

「人間の生命と社会・文化に関する課題文を提示し、理解力、思考力、表現力、独創性などを問う」

【出題意図】

課題文の説明を踏まえて、その原理を自身の体験に置き換えることができるかを設問1で評価する。本文中では「すぐに手に入る報酬のほうが、時間が経ってから得られるもっと大きな報酬よりも価値を感じやすい」と説明されている。これは行動経済学分野でもよく知られる理論で、具体的な例では「1分後に1個のドーナツをもらえる条件と、2年後に2個のドーナツをもらえる条件の選択肢では、殆どの人が1分後に1個のドーナツをもらえる条件を選択する」といった現象である。

課題文では、人間が干渉を誘発する行動をとる理由には、単なる娯楽だけではなく人間の本質的な部分と深く関係があることを説明している。文中ではあまり触れられていないが、「歩きスマホによる衝突や転倒」といった日常生活における具体的な悪影響は数多く考えられる。このことを踏まえて、注意散漫になり医療事故につながらないように対策をとることの必要性が高くなっていくことに想像を働かせて欲しい。歩行や立ち上がり動作のトレーニングなど、リハビリテーションでは集中を必要とする場面は多い。適切かつ具体的に独創性のある考え方を表現できるかを設問2で評価する。

【文字数】

課題文 2288 文字